

2017 - 18

冬の
記録号

平岡いきものはっけん隊からお届けする地域の自然情報誌

季刊

湘南自然誌 Vol.8

〈特集〉

球界一のチョウ収集家

～元大洋ホエールズ投手

稲川誠先生に伺う～

冬空に輝くヒグラシのぬけがら
12月 秦野市養毛自然観察の森にて

P1

四季のたより

はっけん隊について

P2-8

特集 球界一のチョウ収集家
元大洋ホエールズ投手
稲川誠先生に伺う

P9-10

2017.12月～2018.2月
みんなが集めた
生き物はっけん記録

P11-12

はっけん隊活動報告

P13

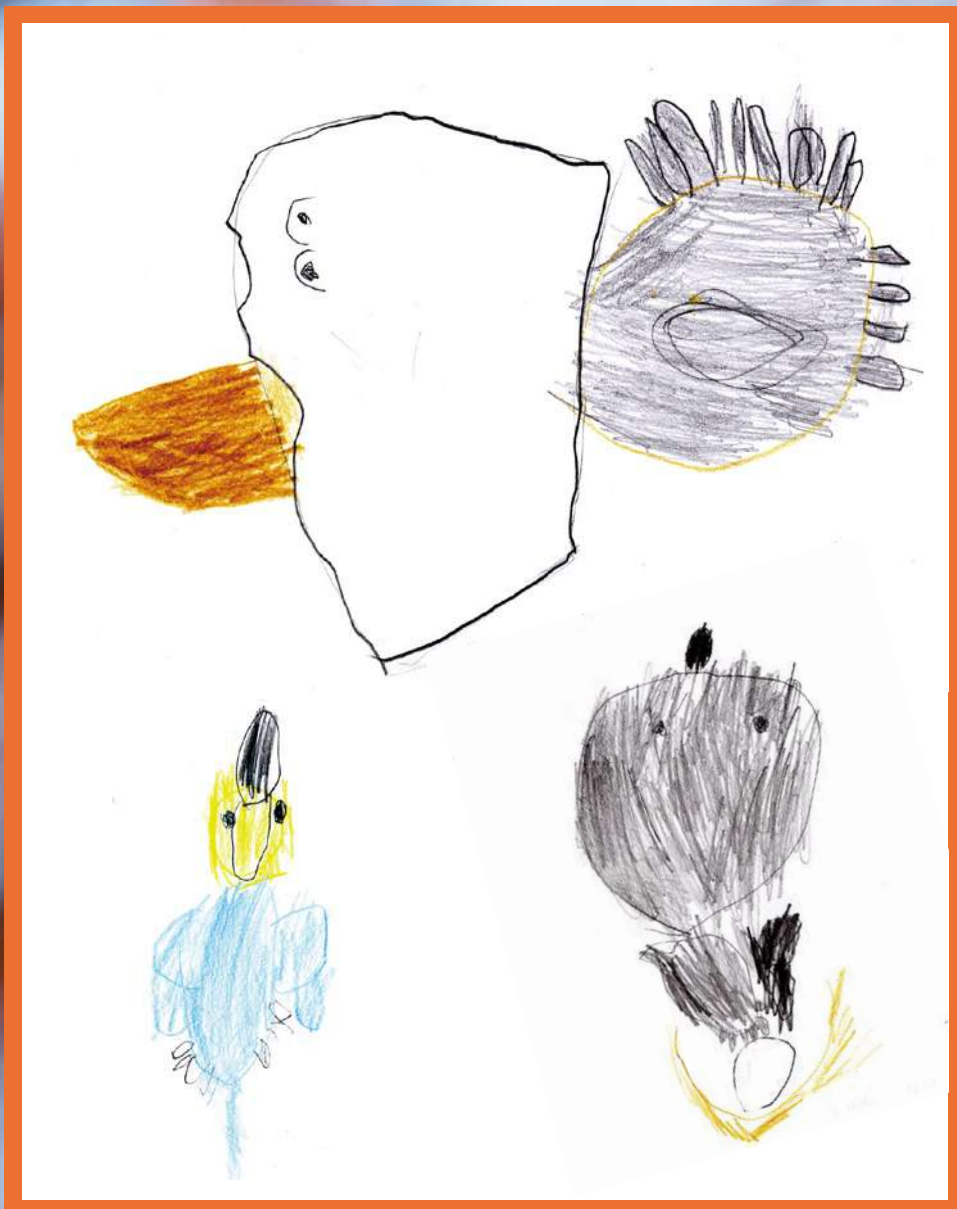
『あいだ先生のチョウ教室』
最終回 ～チョウの擬態のはなし～

P14

とっておきの一枚
写真投稿コーナー
はっけん隊のからのお知らせ

P15

絵画投稿コーナー
おえかきひろば



「だいすきなとり」 画：いいだ あかり (4 さい)

自然はみんなのワンダーランド!

平岡四季のたより



2017年12月 - 2018年2月 冬の平岡っ子たち

前号でかくれんぼ名人“忍者バッタ”をご紹介しましたが、今回は“忍者チョウチョ”です。死んでしまっていたクロノマチョウを子どもが見つけたので、落ち葉の上に置いて、みんなで探してみました。落ち葉に紛れると、たちまち姿がわからなくなくなり、チョウの凄さを体感しました。右の写真で探してみてくださいね！（このように何かに姿が似ていることを“擬態（ぎたい）”と呼びます。詳細はP13参照。）

“お宝落ち葉”探もしました。ケヤキが落葉すると、稀に虫こぶの付いた葉が見つかります。これは“雪虫”と呼ばれる虫の一種ケヤキヒトスジワタムシが作る“ケヤキハフクロフシ”（P9）という虫こぶです。子どもたちは“雪虫の子どものおうち”と呼んでいます。普段は樹上にあるため見ることができないのですが、地上に落ちてきてくれると子どもでも見つけることができます。きくぐみが、8個見つけたのが最多記録です。

冬のビオトープにはまだまだ楽しみがあります。早稲田大学の露木和男先生のメルマガ『毎日の理科、その思想』に“葉芽・花芽の中を見よう”という記事があったので、さっそく子どもたちと実践してみました。枝の先のふくらみを探してカッターで半分に切ってみたところ、ハナミズキやモクレンは“花の赤ちゃん”が入っており、ムクノキやヤマグワはタマネギみたいに“葉っぱの赤ちゃん”が重なっていました。葉っぱが全部落ちた木は、枯れたわけではなく春に向けて準備をしていることがわかりました。他にも色々切ってみたところ、アオキの実は種がでかい！などの新たな発見もあり面白かったです。（堀田）



忍者チョウチョさがし



忍者チョウチョどこかな？
答えはP14



あっ！みつけた！



ハナミズキの花芽
モクレンの花芽
ムクノキの葉芽
ヤマグワの葉芽
アオキの実の断面



冬芽の中身を見てみよう

なにが見えるかな…



お宝落ち葉探し



雪虫のおうち
はっけん！



ひつぱあし
いっぱい笑



タネリキハッて
どんな虫？



冬越し中の
クビキリギス
はっけん！



その他の活動

こんなところにも
お宝がある！

ミヤコウアゲハ 蛹

「平岡いきものはっけん隊」と「湘南自然誌」について

「平岡いきものはっけん隊」って？

「平岡いきものはっけん隊」(略称:はっけん隊)は、平岡幼稚園の在園児と卒園児及びその家族と、教職員、有識者による顧問等で構成されています。あつまりやイベントへの参加義務はなく、隊員それぞれができる範囲で自然と関わる機会を作っています。

「季刊 湘南自然誌」はどんな本？

本誌は、子どもから大人まで生き物の不思議・面白さをより深く楽しみながら学ぶための教育誌です。また、隊の活動報告を行う隊報、地域の自然情報を広く発信する情報誌でもあります。

【はっけん隊の先生紹介】

- 名誉顧問 : 岸一弘 (日本生態学会会員)
- 世話人 : 會田重道 (日本鱗翅学会会員)
- 呼び掛け人 : 堀田佳之介 (平岡幼稚園副園長・日本セミの会会員)

- はっけん隊のお約束**
- ① 安全第一!
 - ② 持って帰るなら最後まで飼う、逃がすなら元の場所に!

特集

球界一のチョウ収集家

～元大洋ホエールズ投手

稲川誠先生に伺う～



大洋ホエールズ投手時代の勇姿

元 大洋ホエールズ
(現 横浜 DeNA ベイスターズ) 投手
チョウ類収集家

いながわ まこと

平岡幼稚園

稲川誠先生 × 堀田佳之介 副園長

〈 稲川誠先生 Profile 〉

満州に生まれ、北京で育つ。終戦後日本に引き揚げ、西南学院中学部、福岡県立修猷館高等学校を経て、立教大学に進学。長嶋茂雄がいる野球部に入部。卒業後は富士製鉄室蘭(現・新日鉄住金(株)室蘭製鉄所)に入社。都市対抗野球で活躍し大洋ホエールズ(現・横浜 DeNA ベイスターズ)に入団。投手としてシーズン26勝(球団史上最多記録)。オールスター3回出場。王貞治が一本足打法に切り替えてから初めて本塁打を打たれた投手でもある。現役引退後はコーチ、スカウト、寮長を務める。野球界で活躍する一方、日本産のチョウをほぼ全種収集するなど、チョウの収集家としても名を馳せている。茅ヶ崎市在住。

堀田佳之介(以下 堀田) > 以前岸一弘さん(はっけん隊顧問)に「茅ヶ崎に元プロ野球選手でチョウの収集家という人がいる」と聞いていたので、是非一度お話してみたいと思い紹介してもらいました。岸さんとは昔から親交があったんですか？

稲川誠(以下 稲川) > そうですね。岸君とは昔からの付き合いで。彼は昆虫も鳥も植物も何でも知っててね。そういえば昔、庭にシジュウカラが来るもんだから、卵を産んでから孵るまでにどのくらいの日数がかかるか女房が全部日数を付けて、岸君に渡したことがありますよ。

堀田 > お庭でシジュウカラが営巣してたんですか？

稲川 > そう。うちの庭に巣箱を作ったら毎年シジュウカラが来るようになったんですよ。それで、私のことを憶えてしまって、庭を歩くと電線の上から鳴きますよ。餌をくれってね(笑)

堀田 > いいお庭ですね。今回、プロ野球選手として活躍しながらチョウの収集もされていた方なんているのかと驚きまして、ちょっと調べてみたところ、すごい御方だったんだと気が付きまして…私や今のお父さんお母さんの世代の方は、稲川さんの現役時代を知らないと思いますので、まずは読者に選手時代の成績を少し紹介させていただこうと思います。



1月19日、茅ヶ崎市のご自宅にお伺いしました

稲川 > おじいさんおばあさん世代ですよ、僕の現役時代を知ってるのは(笑)

堀田 > 稲川さんは大洋ホエールズ(現・横浜 DeNA ベイスターズ)の投手として、球団歴代9位の通算83勝、シーズン26勝は球団史上最多記録、通算防御率は2.78。球団の歴史に残る投手だったんですね。それにしても野球と昆虫採集って異色の組み合わせですよ？

稲川 > 僕は福岡の修猷館っていう高校の出身なんですけど、そこは進学校で野球は全然弱いんですよ。野球だけに打ち込むような校風ではなかったこともあって、生物部、山岳部と、いろいろな部に入ってたんですよ。

堀田 > 野球部の他に生物部と山岳部にも入ってらっしゃったんですか？今では考えられないというか…

稲川 > そこにギターがあるけど、軽音楽部にも入ってた(笑)

堀田 > すごい掛け持ちですね！その後立教大学に進学されて野球部に入られたとのことですが、その時は何部に入るか迷われなかったんですか？

稲川 > 立教の山岳部は歴史のあるところで、山岳部に入るか野球部に入るか迷ったんですけど、結局野球部に入りました。当時の立教は甲子園出場選手を推薦で

たくさん入れてたんです。それが20名くらいいる。自分は一般受験で入ったものだから相手にされないんですよ。甲子園出身選手中心の練習ばかりで、自分らはぐるぐるぐるぐるグラウンドを走らされるんですよ。嫌気ささせて辞めさせるためでしょうね。ところが私は絶対に辞めない。入った以上最後まで頑張る。そうやって4年間頑張り通したんですけど、結局六大学野球では1勝もできずに卒業したんです。

堀田 > それで社会人野球に進まれたのですね。

稲川 > 多分珍しいんじゃないですかね。六大学野球で1勝もできなかった投手がプロに入って何勝もできたっていうのは。プロに行く前に、北海道の新日鉄室蘭、当時の富士製鉄室蘭に入社して2年、都市対抗野球で頑張っ、1試合16奪三振という記録を作った。それでプロが6球団くらい引っ張りに来たんですよ。当時はドラフトがなかった時代。「あなた買います」という時代ですから、水原さん三原さん、いろいろな監督がうちに来ましたよ。でも自分はプロなんて考えられなかったんで、大洋漁業に入社してそこから本拠地が川崎だった頃の大洋ホエールズに出向という形にした。当時のオーナーが「まあ、3年くらい頑張ったらいいから、その後は大洋漁業に戻れ」と、そういうことにしてくれたんです。自分でも、プロは厳しいから3年5年やれたら十分かなと思ってたんですけど、結局50年いることになりましたね(笑) 正確に言うとも49年かな。それで76歳まで働いて辞めました。

び回りましたよ。それで、やくみつる先生にいろいろ描かれたんですけどね。

堀田 > そういえば岸さんからも「稲川さんは、やくみつるのマンガにも登場してる」と聞いてたんですけど、何を描かれたんですか？

稲川 > 野球雑誌かなんかの4コマ漫画でしたけど、題は「ついでにの功名」。「稲川さんはジョウザンシジミを捕りに行った“ついでに”〇〇投手を採った」「オキナワカラスアゲハを捕りに行った“ついでに”△△選手を採った」と(笑) やくみつる先生もチョウを集める方なんで、稲川がチョウ好きだっていうのは知ってたんです。



大洋ホエールズ、投手コーチ時代

寮長時代。左/三浦大輔(元DeNA)、右/内川(現ソフトバンク)



堀田 > 引退後は投手コーチやスカウトを務められ、最後は寮長ですか？

稲川 > そう。筒香だとか梶谷だとかが寮にいた時の寮長。

堀田 > そうなんですか、今大活躍の選手ですよ。

稲川 > 今でもメールで気合入れてますよ。でも何言っても返信は決まってるんですよ。「ありがとうございます。頑張ります」なんですよ。定型文として打ち込んであるんでしょうね(笑)

堀田 > そんな裏話まで聞いてちゃっていいんですかね(笑) スカウト時代のエピソードは何かありますか？

稲川 > 大魔神佐々木を採るために高校生の彼の家に行きましたよ。スカウトは14年やりましたね。全国飛



DeNA 石川雄洋選手と。(寮長時代)

チョウとの出会い

堀田 > それではそろそろ本題のチョウのお話に移らせていただきます。稲川さんとチョウとの出会いはいつ頃だったんですか？

稲川 > 自分は親父の仕事の関係で北京で育って、終戦後小学3年生のときに日本に引き揚げてきたんですよ。埼玉の浦和の小学校に入ったんですけど、親父が大学生の家庭教師を付けてくれたんですね。その方の家に行ったらチョウの標本があったんですよ。それを見て「うわぁー綺麗だなぁ」と感動して、自分も集めだしたのが始まりですね。

堀田 > そうだったんですか。そこからチョウの収集家としての歩みが始まって、昆虫の世界に数々の記録を残されてきたんですよ。1979年に初めてナガサキアゲハが神奈川県で見つかるんですけど、発見した

のは稲川さんなんですね。この茅ヶ崎市文化資料館の研究報告に載ってるんですけど、その時のことをお聞かせいただけますか？

巨人戦の前に…

稲川〉 あれは巨人戦の時だったかな、屋頂試合に出ていると思ったらちょうど庭のそのあたりにいたんですよ。



神奈川県初記録となったナガサキアゲハの標本（中央）

堀田〉 発見場所がご自宅だったんですね。しかも巨人戦の前に（笑）

稲川〉 そうなんです。庭の花に来てたんですよ。パッと見たら翅（はね）の付け根が赤かったんです。僕は九州にいたから「ナガサキアゲハだ！」ってすぐに分かった。それで捕まえたんですけど、みんな信用しな

らもう二度と行かないってなっちゃって（笑）面白いですよ。林の中でバツパリ出会ったんだけど、ワーって泣いてね（笑）デパートで迷子になった子が親に会って泣く気持ちがよく分かったって。

堀田〉 そんなことがあったんですね（笑）この本を見るとその他にもアオバセセリやスミナガシも記録されてるんですけど、それもこの庭で？

稲川〉 そうです。食草のアワブキを植えたんですよ。

堀田〉 チョウを呼び込む工夫をされてたんですか？

稲川〉 それもあるんだけど女房がガーデニングが好きで花や木をいっぱい植えてたんですよ。あとで面白い木をご覧に入れますよ。ギョボク、聞いたことありますか？

堀田〉 ギョボク？聞いたことないですね。

稲川〉 ツマベニチョウ、クロテンシロチョウの食草です。庭に植えたんだけど、屋外にあるものとしては日本で最北端じゃないですかね。



お庭のギョボク

堀田〉 こっちも暖かくなって来てるということですかね。温暖化と言えば、ナガサキアゲハもそうですけど、いろいろなチョウの北限が上がって来てるみたいですね。

いんですよ。神奈川にいるわけがないと。迷蝶として飛んでくるとも思えないし、飼育してたのを逃がしたもののなのか？船に乗って来たものなのか？出所は分かりませんが、ここで捕れたのは事実なんです。だから発表したんですよ。でもよくこの本を見つけましたね？

堀田〉 この本は昔のセミのぬけがら調査の報告を読みたくて入手たんですけど、岸さんに「稲川さんの記録も載ってるよ」って教えてもらって驚きました。

稲川〉 そうですか。～ページをめくりながら～このテングチョウの記録、これは女房が採集したものです。



「茅ヶ崎の蝶類」（岸一弘著）に掲載されている。文化資料館調査研究報告書 5 P19 - 66、1997年 茅ヶ崎市文化資料館発行

堀田〉 えっ？奥様も採集をやられるんですか？

稲川〉 僕が教えたの（笑）

堀田〉 そうですか。ご夫婦で楽しめていいですね。

稲川〉 でも女房は、大昔親父が亡くなってから、殺すのは嫌だって止めてしまった。標本にするとどうしても殺してしまうことになるからね。あとね、西表島と一緒にチョウを捕りに行った時に、迷子にさせちゃったんですよ。僕が夢中になってあっちへ行ったりこっちへ行ったりしているうちにはぐれちゃった。そした

稲川〉 そう。ツマグロヒョウモン、ムラサキツバメ、クロコノマチョウも北上してきた。ツマグロヒョウモンなんかは神奈川を越えてどんどん北上してますね。一つ不思議に思っていることがあって、僕は福岡にいたんだけど、ここより寒いんですよ。



さまざまなチョウ類がやってくるお庭でチョウ採集（右/岸先生）

堀田〉 そうなんですか？

稲川〉 ええ。それなのにナガサキアゲハがいるんですから不思議ですね。

堀田〉 イシガケチョウは今近畿地方あたりまで来ているみたいですね。そのうち関東にも来るのかな？



『DeNA 濱口8勝、球団新人で稲川以来55年ぶり』(日刊スポーツ2017/8/28)
今でも球界の話題に上がる大投手だった稲川先生ですが、気さくに何でもお話をいただきました。

稲川 > 気候や食草が合うと定着しますね。今関東周辺で増えているアカボシゴマダラ、あれなんかは中国のチョウだけど、それでも食草がエノキですし、環境が合うとバアーっと増えちゃう。

日本唯一の記録〜ナンヨウベッコウトンボ

堀田 > 稲川さんは1980年に日本で初めてナンヨウベッコウトンボを採集した方としても有名ですけど、稲川さんはチョウ専門ですよね？どういう経緯で採集できたものなんですか？

稲川 > 僕は長いことプロ野球の世界にいましたから、休みがないんですよ。オフだけなんです。12月1日だけ。その頃にチョウが活発に飛んでるのは八重山諸島だけなんです。こっちだと冬眠してますから。それで石垣、西表、与那国、波照間にコーチ時代に通いました。それから島のチョウに留まらず、外国から気流に乗ってやってくる迷蝶捕りを始めたんです。

稲川 > その日、ちょうど渡辺賢一さんっていう八重山高校の先生で、有名なトンボの研究家の家に招待されてたんですよ。それで「先生、トンボの標本を見せてください」って頼んで八重山諸島で見られるトンボを見せてもらったんです。どのトンボなのか調べようと思ってね。そしたら標本の中に無いんですよ、今日捕ったトンボが。それで先生に聞いてみたら、そんな訳ないと。ここには八重山のトンボは全種あるんだと。それで食事が終わって帰ろうとしたら、「稲川さん、今から一緒に宿泊先のホテルに行くから、そのトンボを見せてくれ」っていうんです。それでホテルまで来てもらってそのトンボを見せたら、よだれを垂らさんばかりにジロジロ見て、三角紙の端に「予約」って書き入れてるんですよ(笑)



稲川先生は『科学朝日』の1993～94の連載コラム「昔昆虫少年だった」にも鳩山邦夫氏(故人)や養老孟司氏と共に取り上げられている。

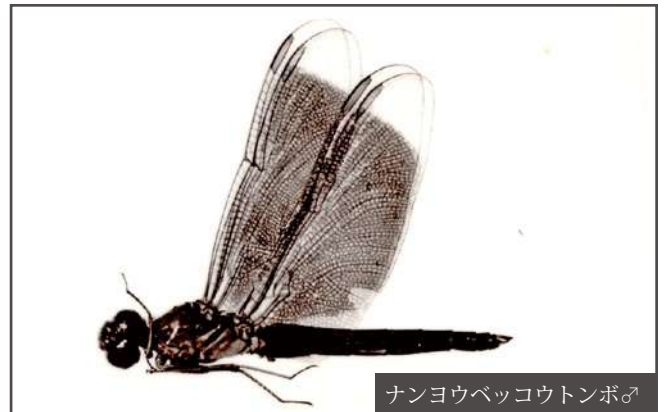
堀田 > 八重山諸島よりもっと南から飛んでくるチョウを探しに行ってた。

稲川 > そう。そうやって通ってた。たまたま12月の石垣島でナンヨウベッコウトンボが網に入ったんです。

堀田 > いまだに稲川さんが採集された1匹だけなんですよね。

稲川 > そうみたいです。チョウの場合は迷蝶って言いますが、これは迷トンボ。僕はチョウ専門だから捕れた瞬間「逃がそうかなあ？どうしようかなあ…」って思ったんだけど、友達へのお土産に持って帰ろうと思って一応三角紙に入れといたんですよ。トンボはなるべく変色しないように生きたまま三角紙に入れて糞をさせてから標本にしますよね？

堀田 > ええ。



ナンヨウベッコウトンボ♂

堀田 > 「これは大発見かも」って気付いたんですね。

稲川 > そう。その先生はトンボに詳しい人だから、これが日本のものじゃないってすぐに分かった。しかも生きてるから飛んできたものだってことも分かるわけです。死んでたら外国のトンボを三角紙に入れて持ってきた可能性も出てくるけど。それで欲しそうな顔をしてるから「どうぞどうぞ、僕はチョウ専門だから」と言ってそのトンボを差し上げたんですよ。今思えば惜しいことをしたなあと思うんだけど(笑)でもその渡辺先生もハッキリ種類が分からなくて、朝比奈正二郎先生という昆虫学者に送ったんですよ。アサヒナキマダラセセリとか、先生の名前が付いている昆虫が何種類もいる学者なんですけど。

堀田 > アサヒナカワトンボもありますね。

稲川 > その先生が、これは *Neurothemis terminata* だと。外国のトンボだから、学名はあるけど和名がないんですよ。それで「ナンヨウベッコウトンボ」って朝比奈先生が命名したんです。これは新聞にも大きく取り上げられました。神奈川新聞(1981年12月7日)では僕の写真付きで、見出しはたとえば、「稲川コーチ、場外で大ホームラン」(笑)あの時は球団のフロントの人間に「稲川はこんなことばかりしてるから選手が育たないんだ！」って言われてしまいましたよ(笑)

堀田 > 球団を巻き込む大ニュースになってしまったんですね(笑)そういう迷蝶や迷トンボって捕る秘訣みたいなものってあるんですか？

稲川〉偶然出合うしかないですね。たまたま台風の後
に気流に乗って来たとかですから。マサキウラナミジャ
ノメとかを名付けた石垣島気象台（測候所）の正木先生
は、台風の気圧とチョウが飛べる気圧なんかを考えると、
900mとか 1000mくらいのところを飛んでいくんじ
ゃないか？とか話してましたね。大きな気圧計に生きた
チョウを入れて気圧を下げてみると、チョウのお腹がも
のすごく膨らむとか、そんな実験をしたそうです。

堀田〉チョウを研究するためには、気圧だとかチョウ
以外のことも知らないといけないんですね。

稲川〉チョウひとつからいろいろ知識が広がってい
きますよ。僕が初めて八重山諸島に行くときに、まず最
初に調べたのが危険な生き物ですね。沖縄本島にはハ



偶然出合うしかない迷蝶がずらりと並ぶ標本箱

ですね。簡単に捕れるからって捕って食べたりすると
危ないんですね。あとヤシガニはハスノハギリの実を
食べて毒を蓄えてることがあるから、カニは死ななく
ても食べた人間は死んだりする。それからヒョウモン
ダコ。最近はこちらにも来てますけど、あれも毒があ
ります。そうやってチョウ以外のことへも知識が広が
っていくわけですよ。

大人も網を振ってみよう！

堀田〉今もチョウの採集はされてるんですか？

稲川〉そこに網がしまっていてあります(笑)来たあー！
って思ったらすぐ飛び出して捕りますよ。

堀田〉八重山諸島の方にも？



八重山諸島の竹富島で



キャンプなどで海外へ行く時に捕って帰ってきたチョウの数々

ブ、先島にはサキシマハブがいて、他にもトカラハブ、
ヒメハブ、いろんなハブがいるわけです。そういうハ
ブの毒性とか生態を勉強した。サキシマハブなんかは
ね、鎌口もたげてパンパンって何回でも攻撃するん
です。毒持ってる奴ほど逃げないですから。それで向
こうの人は「ハブに打たれる」って言うんですよ。

堀田〉打たれる？噛みつくんじゃないんですか？

稲川〉噛みつくじゃなくて、ポンって叩かれる感じ。
だから表現的に「打たれる」になる。一瞬チクってす
るだけだから子どもなんかは分からなくて処置が遅
れてしまう。知り合いは腕を打たれて丸太ん棒みたい
になったそうです。あと向こうで危ないのはツムギハ
ゼ。海岸に行くとハゼがいっぱいいるんですよ。すぐ
捕れる。でもテトロドトキシム、フグの毒を持った魚なん

稲川〉今は行ってないですね。最近では遠くに行くの
は秋田くらいです。野球を教えに行ってるんでね。そ
の休みに行ってらんです。ただあんまり無理は効か
なくなってきましたね。3年前かな、台湾の体育協会
から呼ばれて野球を教えに行ったんですよ。最後の日
に空き時間があつたから網持って飛び出したらアキ
レス腱切っちゃった(笑)女房には怒られましたよ。「内
緒で網なんて持って行っていくから！」って。

堀田〉野球で切らずに昆虫採集で切っちゃったん
ですね(笑)

稲川〉そう。年寄りが膝が痛いだの肩が痛いだの言
ってるのが分かるようになってきましたよ。若いころ
動けた頭でいるから、自分では走れると思うんだけど
走れないんだ(笑)

堀田〉そこまで夢中になる昆虫採集の魅力を、稲川
さんから子どもたちに伝えるとしたらどういう言葉に
なりますかね？

稲川〉魚釣りが好きな人は結構いると思うんだけど、
近いものがありますね。誰もいない山の中でバツと
捕れた喜び。チョウなんかは見つけてもなかなか捕
れないですから、捕まえた時の喜びが大きい。そう
いうのを味わうと病みつきになってくるんですよ。
だから僕が伝えるというよりも、まず網を持って野
山に出てみて欲しいですね。あなたが子どもたち
を谷戸なんか連れて行くときも、網を持たせて捕
らせてあげたいんです。



堀田 > はい、やっぱり自分で網を持たないとですね。私たちもいろいろイベントを企画して、子どもが実体験できる機会を多く作るようにしてるんです。子どもたちよりお父さんお母さんの方が夢中になってたりすることもありますよ。忘れてた子どもの頃の記憶が蘇って来るんでしょうかね？

稲川 > そうですね。ある時、巨人の監督をやった藤田さんを、沖縄でチョウの採集に連れて行ったことがあるんですよ。網渡したら夢中になっちゃって、躓いてステーンってひっくり返りましたよ（笑）通訳の方も連れて行ったんだけど、もうちょっとで崖から落ちそうになってね。始めたばかりの人は全神経がチョウに行っちゃう。段々慣れてくるとチョウ3割、下7割くらいの意識で網を振るようになるんですけどね。

らしい環境におられると、幸せだなあと感じましたよ。全部が全部生き物好きになる必要はないと思うけど、虫に限らずこうやって自然と触れ合っていれば、何かしら将来生きていくためにプラスになりますよ。それからこの本でね、子どもたちに危険な昆虫のことを教えてる記事があるでしょ？危険なものを先に教えておくと、将来何の虫を見ても「うわあー！」って拒絶せずに自然に親しめる。なかなかね、こういう教育をしているところはないですよ。



沖縄本島にて友人と（左が稲川先生）

堀田 > そこまで読んでくれてたんですね。恐縮です。知らないと本当に危険なことがあるので“知識”として教えることも大事だと思ひまして。ただ、やはり本当に生きるのは“知識”よりも“経験”ですね。命にかかわるようなことはあってはならないですけど、少しくらいは危険なことを経験することも時には必要だと思



藤田元司氏からのお土産

堀田 > チョウしか見えなくなっちゃう気持ちは分かりますね。私もセミを追っかけて転んだりとか今でもありますから。でもそれも含めて楽しいんですよ。

稲川 > そう。やってみれば大人でも夢中になれるんです。北海道の摩周湖のそばに鎌倉のお寺のご住職と一緒にしたこともあるんですよ。そのご住職は元々弁護士をやった方なんですけど、やっぱり網渡すと夢中になってね。住職は殺生しちゃいけないから、網を持った時だけ弁護士に戻るって言ってましたけど（笑）

堀田 > ネットを持つのは恥ずかしいなんて言わないで、大人も網を持ってみれば、夢中になるほどの面白さがわかるってことですね。

湘南自然誌を読んで

稲川 > 対談の前に送ってくださったこの『湘南自然誌』を読ませてもらってね、まあこの子どもたちは素晴

うんですよ。痛い思いをして、じゃ次はどうすればいいのかみたいに自分で考えられる。そうやって自然との付き合い方を学んでいって欲しいですね。

稲川 > たとえば木に登ってる子には「危ないぞ！」とか「ダメだぞ！」って言わない方がいい。僕だったら「絶対落ちるなよ！」って言いますね。最初からダメだって言わない方が、いい経験になるんですよ。

堀田 > こうやったらこうなるっていうのは、自分で経験してみないと結局は実にならないですよ。今文部科学省が、幼児教育には「生きる力」が大事だって言ってるんですけど、「生きる力」を培う一番いい方法は自然の中でいろんな経験をすることだと思うんです。楽しいことも危ないことも含めた多様な経験が豊かな感性や人間性を育んだり、学力の礎となったり、健康な身体づくりなんかにつながっていくと思うんですよ。ただその舞台となる自然環境が貧しくなってるので…



寄贈していただいた標本（青い箱）
（幼稚園で見ることができます）



稲川 > 西表なんかはまだ自然が残っていて、いつ行ってもおんなじ風景なんですけど、石垣島は開発されて随分変わってきてますね。自然はね、壊すことはできても作ることはできませんから、できるだけ残してほしいですね。いくら都会にいたって、人間なんて自然の中から出てきたんですからね。僕なんかはプロ野球の世界で人と人との戦いの場にいたから、山に網を持っていくとホッとするとし、童心に帰るといふか、そういう気持ちの入れ替えが必要じゃないですかね。

堀田 > 私たちの生活は常に自然の恩恵を受けることで成り立っているわけですが、都会なんかでは生活と自然が切り分けられてしまっていて、自然がなくても生きていけるかのような錯覚を抱いてしまっているんじゃないか

堀田 > ただ、プロ野球選手はハードルが高いですね…

稲川 > いいんですよ、夢は大きくて。仮に壁に突き当たったとしても、そこから他の方向へ行けばいいんであってね。その経験は無駄にはなりませんよ。



堀田 > ありがとうございます。子どもたちがいろいろな目標を見つけられるように多様な経験をさせてあげたいと思います。稲川さんが家庭教師の方にチョウの標本を見せてもらってそこからチョウの世界に入ったように、何がきっかけになるか分かりませんから。

稲川 > プロのコーチを20年やったけど、教えるってのは大変。相手は生き物だから。感情がある。「あんな

ないかと思うんですよ…湘南地域もだいぶ自然が無くなっていますが、残っているうちに未来の世代まで引き継げるようにしていきたいですね。

次代を担う若者へ

堀田 > 主な読者である園児や父兄の方々に何かメッセージをいただけないでしょうか？

稲川 > お父さんお母さん方もね、いつか仕事を卒業するわけですよ。仕事辞めた後何もすることがないと言うんでは面白くない。何かいい趣味を持たれたらね、いいんじゃないかなと。昆虫でもいい、草花でもいいし、歌でもいい。実際僕も、チョウやってて良かった、音楽やってて良かった、ガーデニングやってて良かったって思うことが多くなりましたよ。すごく世の中が広がる。いろんな人と友達になれるし。

堀田 > 昆虫採集だったらいくつになっても始められますよね？

稲川 > ええ。網一つあれば始められる趣味ですし、おすすめですよ。

堀田 > 子どもたちへは何かありますか？

稲川 > 子どもたちにはね、何か目標を持ってもらいたいね。お医者さんでもいい、学校の先生でもいい、昆虫博士でもいい。出来ればプロ野球選手を目指してもらいたいんだけど（笑）掛け持ちでもいいんですよ、僕みたいにね。

禿じじいに教わったって」って思われたら終わりなんです。自分に心服させないと。子どもたちが「堀田先生！堀田先生！」って慕って来る、そういう先生になるといいですね。ベルトコンベアーのように子どもを次々送り出すんじゃなくて、将来あの先生に会いたくなって戻ってくるような先生になってください。僕も野球のことなら何質問されても答えられるようにしておこうと勉強し続けてきたけど、そうやって常に自分を磨いて行けば、あなたも大先生になれますよ（笑）

堀田 > 最後は私へのメッセージですね（笑）頑張ります。今日はありがとうございました。

稲川 > こちらこそありがとうございました。野球の取材は年がら年中、王に一本足打法で打たれた時はどうだった？とか、そんなのばかりで…だからこういうチョウの取材ってのは嬉しかったですよ（笑）



みんなが集めた 生き物はっけん記録 (2017.12-2018.2)

オオバン ①秦野市鶴巻 ②2018年2月
③堀田来佳・佳之介





































生き物の写真募集!

昆虫・カエル・鳥・野の花など何でもOK!
写真データと「いつ」「どこで」「だれが」
を添えて下記アドレスまで。
(隊員以外の方の投稿も大歓迎)
ikimono@hiraoka-kg.com

※本欄の記録は正式発表ではありません。重要性の高い記録は
別途専門誌・学術誌にて正式に発表します。
※生き物の同定は、難しいものは岸一弘先生にお願いしています。

記録の見方 ① 場所 ② 記録年月 ③ 氏名 (危) 危険な生き物 (外来) 外来種

<p>昆虫綱 バッタ目</p>  <p>クビキリギス ①平岡の森 ②2018年2月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>ナナフシ目</p>  <p>ヒメクダマキモドキ♀ 死体 ①平岡の森 ②2017年12月 ③堀田佳之介</p>	<p>ナナフシ目</p>  <p>ニホシトビナナフシ♀? 死体 ①秦野市蓑毛 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>ナナフシ目</p>  <p>ニホシトビナナフシ♀? 死体 ①秦野市蓑毛 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>カマキリ目</p>  <p>ハラビロカマキリ卵鞘 ①横須賀市衣笠 ②2018年1月 ③堀田来佳・佳之介</p>
<p>外来</p>  <p>ムネアホハラビロカマキリ卵鞘 ①秦野市菅屋 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>カメムシ目</p>  <p>ツヤアオカメムシ ①平岡の森 ②2018年1月 ③堀田佳之介</p>	<p>カメムシ目</p>  <p>ケヤキハフクロワシ(ケヤキの葉) (ケヤキヒトスジワタムシ虫こぶ) ①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>カメムシ目</p>  <p>アブラセミ? ぬげがら ①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>カメムシ目</p>  <p>アブラセミ死体 ①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>
<p>外来</p>  <p>ミンミンゼミ死体 ①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>コウチュウ目</p>  <p>ヤノナミガタチビタムシ (ムクノキ樹皮虫) ①平岡の森 ②2018年2月 ③富岡誠一</p>	<p>コウチュウ目</p>  <p>ヒメマルカツオブシムシ幼虫? ①平塚市真田 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>コウチュウ目</p>  <p>ナナホシテントウ ①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>コウチュウ目</p>  <p>ナナホシテントウ ①平塚市日向岡 ②2018年2月 ③山本陽向</p>
<p>コウチュウ目</p>  <p>ヒメカメノコハムシ (ムクノキ樹皮虫) ①平岡の森 ②2017年12月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>コウチュウ目</p>  <p>ハムシの一種 ①平塚市日向岡 ②2018年2月 ③山本陽向</p>	<p>コウチュウ目</p>  <p>コガタリハムシ ①平岡の森 ②2018年2月 ③富岡誠一</p>	<p>コウチュウ目</p>  <p>ヒレルクサブトゾウムシ (ムクノキ樹皮虫) ①平岡の森 ②2017年12月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>ハエ目</p>  <p>ヒラタアブの一種 ①平岡の森 ②2017年12月 ③堀田佳之介</p>
<p>チョウ目 蛾類</p>  <p>シロホビツコシヤクボ ①秦野市蓑毛 ②2018年2月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>チョウ目 蛾類</p>  <p>クロテンフコシヤクボ ①横須賀市衣笠 ②2018年1月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>チョウ目 蛾類</p>  <p>ヤママユガ空繭 ①横須賀市衣笠 ②2018年1月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>チョウ目 チョウ類</p>  <p>ジャコウアゲハ繭 ①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>チョウ目 チョウ類</p>  <p>アオスジアゲハ食害繭 ①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>
<p>チョウ目 チョウ類</p>  <p>キアゲハ繭 (死体の可能性あり) ①茅ヶ崎市鶴が台 ②2018年2月 ③富岡誠一</p>	<p>チョウ目 チョウ類</p>  <p>アカタテハ ①平塚市真田 ②2018年2月 ③堀田佳代</p>	<p>チョウ目 チョウ類</p>  <p>クロコノマチョウ♀ 死体 ①平岡の森 ②2017年12月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>ハチ目</p>  <p>カシワハマルタマフシ (カシワの葉) ①平岡幼稚園(原っぱ) ②2018年1月 ③堀田佳之介</p>	<p>ハチ目</p>  <p>セグロアシナガバチ ①平岡幼稚園 ②2017年12月 ③堀田佳之介</p>

<p>ムカデ綱</p>  <p>トビズムカデ幼体?</p> <p>①平岡の森 ②2017年12月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>クモ綱 クモ目</p>  <p>ネコハグモ?</p> <p>①平塚市真田 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>カニムシ目</p>  <p>カニムシの仲間 (ムクノキ樹皮虫)</p> <p>①平岡の森 ②2017年12月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>甲殻類</p>  <p>ウツガニ</p> <p>①平岡の森 ②2017年12月 ③堀田佳之介</p>	
<p>腹足綱</p>  <p>ミスジマイマイ殻</p> <p>①平塚市日向岡 ②2018年2月 ③山本陽向</p>	<p>両生類</p>  <p>アマガエル死体</p> <p>①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>爬虫類</p>  <p>ニホンヤモリ卵殻</p> <p>①平岡幼稚園(運動場) ②2017年12月 ③教職員</p>	<p>爬虫類</p>  <p>ニホンヤモリ</p> <p>①平岡幼稚園(運動場) ②2017年12月 ③教職員</p>	<p>鳥類</p>  <p>マガモ</p> <p>①秦野市鶴巻 ②2018年2月 ③堀田来佳・佳之介</p>
<p>マガモ</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>マガモ</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>カルガモ</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2018年2月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>コガモ</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2018年2月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>バン</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>
<p>オオバン</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>アオサギ</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2018年2月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>タゲリ</p>  <p>①平塚市岡崎 ②2018年1月 ③府川光穂</p>	<p>タゲリ</p>  <p>①平塚市片岡 ②2018年2月 ③堀田佳之介</p>	<p>タゲリ</p>  <p>①平塚市岡崎 ②2018年2月 ③堀田佳之介</p>
<p>チョウゲンボウ</p>  <p>①平塚市岡崎 ②2018年1月 ③堀田佳之介</p>	<p>ハヤブサ</p>  <p>①平塚市北金目 ②2018年2月 ③堀田佳之介</p>	<p>ウグイス</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2018年2月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>トラツグミ</p>  <p>①横須賀市衣笠 ②2018年1月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>穴翁ハラ</p>  <p>①平岡の森 ②2018年2月 ③堀田佳之介</p>
<p>ジョウビツキ</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2018年2月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>スズメ</p>  <p>①秦野市鶴巻 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>哺乳類</p> <p>ノウサギの糞</p>  <p>①秦野市糞毛 ②2017年12月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>外来</p> <p>特定外来生物</p>  <p>クワハラリス</p> <p>①横須賀市衣笠 ②2018年1月 ③堀田来佳・佳之介</p>	<p>外来</p>  <p>ノネコ(イエネコ)</p> <p>①平岡の森 ②2017年12月 ③堀田佳之介</p>
<p>植物</p> <p>タネツクバナ</p>  <p>①平岡の森 ②2017年12月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>タネツクバナ</p>  <p>①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>ホトケノザ(花)</p>  <p>①平塚市岡崎 ②2018年2月 ③小清水千佳</p>	<p>アオキ(実)</p>  <p>①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>	<p>クサキの葉痕</p>  <p>①平岡の森 ②2018年1月 ③平岡の森探検園児</p>

地域の自然を知ろう！遊ぼう！

はっけん隊活動報告

2017.12月～2018.2月

鈴川探鳥会

野鳥観察・研究グループ“こまたん”のご協力のもと、2018年2月18日(日)9:30～11:30に平岡幼稚園から鈴川周辺を散策して鳥類の観察会を実施しました。参加者は54名(こまたんの皆さんと合わせると計65名)で、とても賑やかで楽しい観察会となりました。

当日見聞きした鳥類は、タゲリ、ツグミ、タシギ、カワラヒワ、チョウゲンボウ、カワセミ、カルガモ、コガモ、オオバン、カウなど30種、子どもも大人も大満足の内容だったと思います(参加者の感想は、写真内参照)。“こまたん”の皆様、ありがとうございました。



タゲリ

撮影：金子典芳氏

「タゲリが“ミュウ”と鳴くのが楽しかった。」
「タゲリがかっこよかった。」(園児)



「可愛い鳥、面白い鳥、かっこいい鳥がいて楽しかった！」(園児)



カワセミ 撮影：金子典芳氏

「カワセミのオレンジがきれいだった。」(園児)



「カラスが飛ばなくても楽しかった。」(園児)



チョウゲンボウ

撮影：金子典芳氏



ヒバリ

撮影：金子典芳氏



「鳥がたくさん見られたのが楽しかった。」(園児)

マガモ

撮影：金子典芳氏



撮影：金子典芳氏

「身近にこんなキレイな鳥がたくさんいることも知れて良かったぞ。」(園児父)



撮影：金子典芳氏

タシギ

「レンズを通して見た鳥たちの姿がとてもかわいくて、鳥に対する見方が変わりました。」(園児母)



「オオバンが楽しかった。」
「鳥がかっこよかった。」(園児)



「普段こんなに鳥を身近で見るのがなかったので、羽を開いた時の長さとかに驚きました！」(園児母)



見つけた鳥をみんなで読み合わせる通称「鳥合わせ」の風景

はっけん隊反省会

2018年2月20日(火) 14:00～15:00、平岡の森にある研修センター2階で平岡いきものはっけん隊の反省会を行いましたので、ご報告いたします。ご参加いただいた隊員の皆様、書面にてお伝えくださった皆様、ありがとうございました。

【良かった点】

- いつでもメールで送った生き物について詳しく教えてもらえるので、親子で一緒に学ぶことができコミュニケーションも深まった。今までより自然が好きな家族になれた。
- 観察会などで専門の方とお話できるところが良い。
- 観察会でよく話を聞いている我が子に驚いた。家に帰っても色々憶えた内容を話している。
- 虫を見つける→写真を撮る→湘南自然誌を見る(自分やお友だちが見つけたものを探して楽しんでいる)。
- ハルゼミ調査は、朝早起きをしてセミを探したり、磯遊びをしたことが特別な思い出になったようです。
- アオバト観察会、朝早かったけど逆にそれが良かったです。小さな未就学児にも優しくしていただけてありがたかったです。アオバトのことも学べて良かったです。
- みんなでどこかに行って、生き物を探すのが楽しいようです。

【改善点】

- イベントの告知をもう少し早くして欲しい。
→できるだけ早めにお知らせするようにします。
- 掲示板の存在を知らなかった人も多いのでは？
→春の記録号(Vol.9)に掲示板の使い方を掲載します。

【今後やってみたいこと】

- 昆虫の育て方や、育てやすい昆虫が知りたいです。
→専門の先生に質問する企画を計画します。

普段聞けない活動や自然誌の感想など、いろいろ伺うことができました。



全国学校・園庭ビオトープコンクール2017 発表と交流大会

2018年2月11日(日)、東京大学にて、秋篠宮殿下やドイツ大使をはじめ多くの方々が集い『全国学校・園庭ビオトープコンクール2017 発表と交流大会』が開催されました。

我が園は、日本生態系協会賞の受賞園として、「平岡ビオトープ」と「はっけん隊の取り組み」の発表を行いました。

「平岡ビオトープ」は、住宅地や耕作地に囲まれており、決して自然豊かな立地ではないにもかかわらず、多種多様な生き物が集まる地域の生き物のネットワーク拠点として重要な役割を果たしている点について大きな反響をいただきました。また、はっけん隊が発行している「湘南自然誌」の内容の濃さに驚いた!との声も多数いただきました。これも、毎号隊員の皆さんが送ってくれる写真や絵のお陰です!

今後も、地域の自然を楽しむ活動を盛り上げていきたいと思っております。



東京大学で発表してきました



赤門前で記念撮影(文之助先生と佳之介先生)



審査員講評と賞状授与式



平岡パネルの前で足を止めるドイツ大使(右)と大使の質問に答える佳之介先生(左)



発表パネル

『あいだ先生の チョウ教室』

第7回 (最終回)

～チョウの擬態のはなし～



平岡いきものはっけん隊世話人

あいだ しげみち
會田 重道 先生

1942年東京生まれ。大磯町在住。幼少の頃よりチョウに興味を持ち、大学では農業昆虫学を専攻。退職後は大磯丘陵のチョウの調査と写真撮影を行う。日本鱗翅学会、日本チョウ類保全協会、相模の蝶を語る会各会員。著書に写真集「大磯の蝶」がある。



ヒオドシチョウ

記名のない写真はすべて會田先生撮影です

昆虫の世界では、何かに姿や振る舞いが似ていること～擬態～が身を守ることに繋がっていると言われています。ここでは湘南地域で見られるチョウで、①“体内に有毒成分を持つチョウに擬態”、②“周りに溶け込む擬態”をしているとされているものをいくつか紹介します。

※「擬態」をテーマに執筆するにあたり、海野和男著『昆虫擬態の観察日記』（技術評論社 2007年）を参考にしました。

① “体内に有毒成分を持つチョウ” に擬態

カバマダラは、幼虫の食草が有毒成分を含むため、鳥などの捕食者が嫌がると言われています。そのカバマダラに似ていることが生存に役立っていると言われているのが、ツマグロヒョウモン♀とメスアカムラサキ♀です。



カバマダラ

九州南部以南に生息し、たまに迷蝶として湘南でも記録される。

有毒

※ 触っても害はありません



メスアカムラサキ♀

無毒

南西諸島南部に生息し、稀に迷蝶として湘南でも記録される。

稲川誠氏寄贈標本（撮影・富岡誠）



ツマグロヒョウモン♀

南方系のチョウ。湘南では稀だったが、90年代後半から増加。現在では普通に見られる。

無毒

この他に、オナガアゲハも毒を持つジャコウアゲハに擬態していると言われることがあります。

※ 迷蝶とは…
台風や季節風に乗って遠くから飛来したとされるチョウです。

② 周りに溶け込む擬態

チョウの中には、休眠時に目立たないように翅（はね）の裏側が周囲に溶け込むような色模様になっているものがあります（表側はきれいなことが多い）。カタテハやムラサキシジミなど、成虫で越冬するチョウにこの特徴が顕著に表れています。



カタテハ

ウラ オモテ



ムラサキシジミ

ウラ オモテ

編集部より

前号の特集に、山田吉郎先生の「見えないものを見る力を養うことが、心の豊かさを育む」という趣旨のお話がありましたが、今回のテーマ“擬態”も「見えないものを見る世界」と言えそうです。

擬態とは、生物が進化の過程で獲得してきた「生き残り戦略」の1つと言われていますが、そのような考え方も自然界の「見えない関係」を見ようとした先人の想像力が元になっています。

人知の及ばない自然は、擬態だけでなく、多くの“神秘”や“不思議”で溢れています。「なぜ？」を見つけたら、ぜひ想像を膨らませてみてください。これまで見えなかった世界が見えてくると思いますよ！

最後に、全7回に及ぶ執筆をしてくださった會田先生、ありがとうございました。（堀田・富岡）



「なぜ？」「どうして？」「何のために？」
いろいろ想像してみると楽しいよ！

“はね”が少しくらい
欠けても飛べるんだ

これって「目」や「触角」
みたいに見えるね

ウラナミシジミ

敵をまわわす
ためかな？

うしろの方が目立つね

“はね”を頭に
見せるためかな？

ヒメウラナミシジミ

自然の美しさ・自然とふれあう子どもたち
ぎらめく一瞬を切り取った写真館 **写真投稿コーナー**

次号Vol.9から紙面リニューアルを予定しているため、本コーナーは今回で終了とさせていただきます。今まで投稿してくださった皆様、ありがとうございました。
今後も、観察会などで撮られた風景や子どもの写真は、活動報告欄などで積極的に使っていきたいので、いい写真が撮れましたらぜひお送りください。



『12月公園』 野村塁
ニコン FM3A AIAF ニッコール 50 mm f1.4
コダカラー-superGOLD400



『冬の空』 小林鉄斎
ニコン D750 1/4000 F5.6 ISO200
小林さんは平岡幼稚園のイベントの撮影をして下さっているスロカメラマンです。



『アオバト観察@大磯』 河出向史 スマートフォン



『2018 皆既月食』 小林鉄斎



『カラスとトビ』 山本剛

P1のクイズの答え

「忍者チョウチョ」はここにいました。みんなはわかったかな？

はっけん隊からのお知らせ

● ひらつか環境ファンクラブ環境パネル展

3月20日～27日に平塚市役所新庁舎一階多目的ホールで開催されるパネル展に参加します。今回は東京大学での発表(P12)にも使用した新作パネルを展示します。お時間がありましたらお越しください。

● 湘南自然誌のバックナンバー

① HPでダウンロード

平岡幼稚園 HP からPDFがダウンロードできます。

② 公共施設で閲覧

現在の収蔵先> 神奈川県立生命の星・地球博物館ライブラリー、平塚市博物館、平塚市図書館、大磯町立図書館、大磯町郷土資料館、秦野市くずはの家、神奈川県立秦野ビジターセンター

● 「わかば証書」を授与

本年度も環境にやさしい園づくりが評価され、平塚市長・平塚市教育委員会教育長より、わかば環境 ISO「わかば証書」を授与されましたのでご報告いたします。



● 編集部よりお詫びと訂正

○ Vol.7 P1 6行目

ヒメクダマキモドキはギリギリスの仲間なので、本種の説明文の「南方系のバツタ」を「南方系のギリギリス」に訂正します。

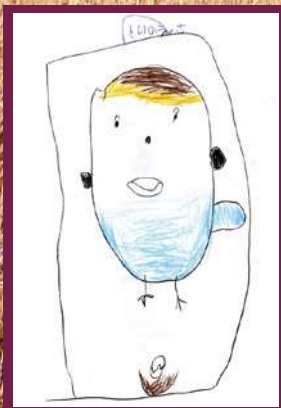
○ Vol.7 P18

野鳥画の作者名が「東郷野なりさ氏」となっていますが、正しくは「東郷なりさ氏」です。お詫びして訂正いたします。

おえかきひろば

絵画投稿コーナー

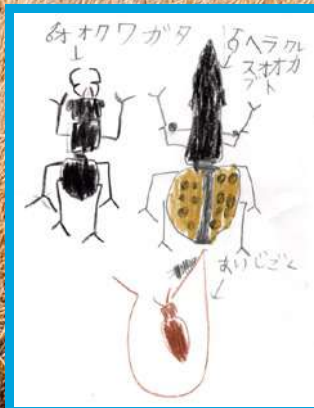
(今回の表紙絵は、教職員19名+謝恩会役員10名で投票を行い選出しました。)



「とりのおうち」
画：いいだ やまと (6 さい)



「いろいろなむし」
画：なかやま きよしろう (6 さい)



「ほくのすきなむし」
画：ふくしま ゆうご (7 さい)



「くらげたち」
画：うじい ほだか (6 さい)



「むしのずかん」
画：うじい いぶき (4 さい)



「よんひきのむし」
画：ふくしま にな (4 さい)



「むしたち」
画：うじい ほだか (6 さい)



「タケリ」
画：のむら さく (4 さい)



「からすとくじゃく」
画：うえだ みのり (7 さい)



「しんかんせんどり (ハイバサ) VS からす」
画：のむら なつ (5 さい)



「ちょうちよとてんとうむしとごきぶり」
画：やまぐち ここな (5 さい)

平岡幼稚園の紹介

平塚市北部の伊勢原台地南端の麓に位置する我が園には、台地斜面から湧き水が染み出し、元々の表土も多く残されるなど、豊かな自然環境が保存されています。2009年より園地をビオトープにして、周囲に住む多様な生き物を呼び込みながら、子どもたちと一緒に地域の自然環境を保全する活動を行っています。昭和42年開園、学園地総面積7,501㎡。

- 【受賞歴】2012年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2011「学校園庭ビオトープ奨励賞」受賞
2014年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2013「日本生態系協会賞」受賞
" 関東・水と緑のネットワーク拠点100選に「平岡幼稚園ビオトープ」が選定
2015年 生物多様性日本アワード 最終選考
2016年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2015「日本生態系協会賞」受賞
2018年 全国学校・園庭ビオトープコンクール2017「日本生態系協会賞」受賞

【主な研究・発表実績】

- ◆2015年
平塚市内のセミのぬけがら調査(2014年), 自然と文化, (38): 33-46. 平塚市博物館.
- ◆2016年
平塚市とその周辺地域のセミのぬけがら調査(2015年), 自然と文化, (39): 41-59. 平塚市博物館.
神奈川県西部(主として平塚市)のハルゼミ調査, 自然と文化, (39): 29-40. 平塚市博物館.
神奈川県平塚市でミンミンゼミ赤色型を採集, Cicada, 22(2): 40. 日本セミの会.
平岡幼稚園(平塚市岡崎)でヒラタクワガタを目撃, 神奈川虫報, (190): 26-27. 神奈川昆虫談話会.
- ◆2017年
平塚市におけるトンボ目の生息状況(2015-2016), 神奈川自然誌資料, (38): 59-66. 生命の星・地球博物館(共著)
平塚市と周辺地域のセミのぬけがら調査(2016年), 自然と文化, (40): 41-60. 平塚市博物館.
神奈川県におけるハルゼミ *Terpnosia vacua* (Olivier, 1970) 調査, 自然と文化, (40): 61-80. 平塚市博物館.
アブラゼミ脱皮殻にみられた畸形, Cicada, 23(2): 37-38. 日本セミの会.

編集後記

まずは内容のチェックをしていただいている岸一弘先生に感謝申し上げます。そして稲川先生、ヘイズターズファンも楽しめる特集になりました。対談を引き受けて下さりありがとうございました。今回は表紙絵選出の票が分かれて激戦となりました。どれも眺めているだけで子ども時代に還れるような絵です。次号にも投稿お待ちしています！(富岡)